

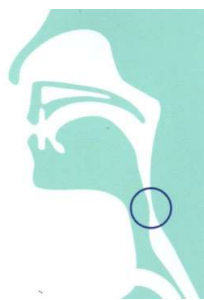
『EL発声から食道発声からシャント発声へ』

K. H

失声後は筆談での会話伝達生活が始まりました。
限界を感じて入会した銀鈴会ではEL発声教室に入り、
言葉を話せる喜びを感じ、また、喉の通りもよくなり、楽しい火・木・
土でした。EL機器は騒音の中では使い辛い等の不便を感じて、食道発声
教室へ移籍しました。食道発声では、息継ぎの間、読点の大事さ、
正しいアクセント発声等楽しく徹底した指導を受けました。
3～5音発声が出来た頃、主治医からプロヴオックス手術の許可がおり
すぐに手術を受けました。手術翌日には言葉がスラスラ出てきて自分
でもビックリ、食道発声教室で学んだ事は無駄ではなかった。
今は方丈記に嵌まっています近いうちに、現代語訳を【すらすら朗読】
という目標を持っています。



*EL発声



*食道発声



*シャント発声